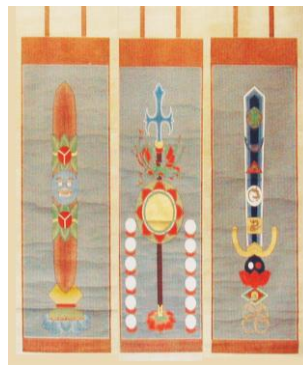


## 黒河(くろこ)の会便り 第 12 号

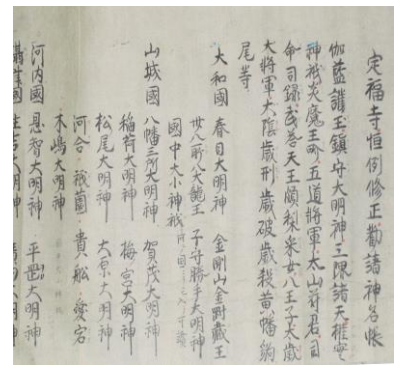
### ◆修正会(しゅうしょうえ)

正月 11 日、平成 27 年度 定福寺恒例修正会が堂ノ講保存会によって厳かに執り行われました。以前は「堂ノ講」と言う講は各地にありましたが、現在は姿を消してしまった地域も多いようです。しかし、ここ賢堂の黒河道の登り口に当たる定福寺では今も恒例修正会が行われており、古来よりの伝統に従い、神仏習合の形を残した貴重な文化遺産的伝統行事・宗教行事として堂ノ講が受けつぎ、現在も伝え継がれています。

式次第は、本堂の秘仏阿弥陀如来(県指定美術工芸品)をご開帳、理趣経の読経を唱え、続いて神名帳により全国津々浦々の神々を勧請して、国家安泰五穀豊穰・家内安全・無病息災を祈願します。(※写真 1, 2)



1.三種の神器の掛け軸



2. 神名帳

次に櫛漆(ハゼウルシ)の白木に、牛玉定福寺寶印と護符を挟んだ「牛玉杖(ごおうつえ)」(※写真 3)により参列講員の頭に「お精根入れ」(※写真 4)を行います。



3. 牛玉杖(上) 護符(下)



4. お性根入れの儀式



続いて本堂から八幡宮に火を送り、その火をさらに九重石塔(橋本市指定文化財弘安八歴の銘あり)に送り、石塔の前で読経のうえ、本年の開きの方角に向かって、天・地・人と三本の矢を放ち厄払いをして(※写真 4)、約 1 時間半に及ぶ修正会の行事を終えます。



4、厄払い

このような形式の修正会の現存は珍しいようで、昨年度は茨城県土浦市の石塚眞氏、本年は枚方市の武知邦博氏(旧田中家鋳物民族資料館学芸員)による取材を受けています。

現在、黒河道を世界遺産の追加登録に申請しています。定福寺に遺されている貴重な伝統行事も大切に護り、後世に伝えていければと願います。

黒河の会 山本 一清